

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	子育て～新たなチャレンジ支援事業		
法人名	学校法人 松本学園		
学校名	日本総合教育専門学校		
代表者	松本 秀藏	担当者 連絡先	前田 優一
<p>1. 事業の概要</p> <p>女性の生き方として再就職は、理想・現実ともに多くなっているが労働環境が厳しさを増し、情報通信技術や関連機器の導入等、ITの技術進歩の状況下において、大変険しい道となっている。</p> <p>このような女性達が自分自身の考えとライフステージにあった生き方を主体的に選び自らにとって望ましいチャレンジのあり方を検討・発見・可能にするために時代が求めるITスキルとビジネススキル、将来にわたってのキャリア形成の認識を促すためのキャリア・カウンセリングを取り入れたキャリアプランニング支援講座を併せて実施した。</p> <p>また子育て中の女性が安心して受講できるよう、専門職の教員による託児の受け入れを行い育児相談・仕事との両立についてなど幅広く支援、フォローアップすることを可能とし全面的に支援することを可能とした。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>子育てや介護等により一時期離職している女性にとって、就業のブランク・職務遂行能力・仕事と家庭の両立等のさまざまな問題に不安を抱き積極的に求職活動をしたり、能力アップのための自己投資をすることへの一歩を踏み出せないことが多い。</p> <p>仕事探しは、自分の長所を知って、その長所を生かす方法・手法(キャリアデザイン)を見つけることが始まりだと考え、自己表現力の裏付けとなる実力をつけてもらうために、キャリアカウンセリングを取り入れたキャリアプランニング支援講習・時代が求めるITスキルとビジネススキル習得講習を策定し、全35回(1回3h)とじっくり長い時間をかけての訓練カリキュラムを実施した。それにより受講生同士のコミュニケーションが生まれ、助け合う姿がみられた。他人の言動や価値観にふれることで、新鮮な刺激となり偏りがちな自己の思考の転換も図られた。講座が終了するころには、強い連帯感が生まれ、行動計画へ向けての環境ができあがり、実践へと確実に1歩を踏み出し、全体のおよそ7割の人が再就職の進路を見だし、(講座受講中に再就職の応募へと行動に移した人・専門知識の習得へと行動を移した人)3割程度の方が再就職へとつながった。</p>			

②事業により得られた成果

昨年度のIT講習でのアンケート結果で、「時間数を増やしてほしい」との回答が多かったことと受講者のITスキルに開きがあり両極端の回答があったことを踏まえ、IT講習時間を増やすと同時にパソコン教室を開放し、講座時間以外でも練習ができるように配慮した。

またWord文書処理技能認定試験3級及びExcel表計算処理技能認定試験3級取得を目指した試験対策講座を取り入れ、技能習得の目標を明確にし、参加意識の向上を図った。

結果、下記のとおり、高い合格率の実績をあげることができた。

<Word文書処理技能認定試験3級>

	受験者数	合格者数
第1期	19名	17名
第2期	16名	11名

<Excel文書処理技能認定試験3級>

	受験者数	合格者数
第1期	19名	19名
第2期	16名	3月下旬合否発表

キャリア講習においては、現実的なニーズの就職支援として応募種類(履歴書・職務経歴書・ジョブカード)の作成方法・面接演習・ビジネスマナー等を実施、同時に、自分を見つめ直し、解決・整理への援助や自己成長へのきっかけを見いだし、職業人生への意味付けの援助として根本的なニーズへのアプローチを実施し、キャリア・カウンセリングにより、個別の悩みを受け止め、再就職に向けて調整すべき問題を明確化し、その対処に向けての行動がおこせるよう援助を行った。

多くの受講生の方々から満足を得る評価をいただき、講座の満足度と併せて、自分自信への満足度が得られた結果へとつながり、講座の有効性を検証することができた。

③今後の活用

女性の再就職には空白があったり、困難な面もあるが、様々な働くスタイルがあり、今の自分のたつ位置を知り、どのように再スタートを切るかを考えることが必要であり、長い目で自分の人生をとらえて、チャレンジしていけるための支援を、これまで培ったノウハウを活かすと同時に、教育プログラムの再構築を図り、より効果的で効率のいい講座の実施を進めていきたい。

④次年度以降における課題・展開

<課題>

◆Word文書処理技能認定試験3級及びExcel表計算処理技能認定試験3級の検定試験を本校で開催し、多くの受講生の方々から明確な目標ができ、就職活動に自信を持って望むことができると好評を得ることができ、その他の資格取得を目指した講座開催のニーズが多く見られた。

しかし一部では、欠席等によりカリキュラム内容についていけず、検定試験の受験を見合わせた方もいた。

◆募集人員を上回る応募があり、せっかく応募いただいたが講座受講ができなかった方が多数でしまった。

◆就職支援としてジョブカード発行を講習の中に取り入れ、能力向上の一助となり就職活動やキャリア形成に活用出来た方と、まだ国家施策として始まったばかりで認知度が低かったこともあり必要性を感じられなかった方が一部見受けられた。

<展開>

講座を開講するにあたり平成19年度と同様、多くの方々から問い合わせ・申し込みをいただき、こういったセミナーや講座の重要性が叫ばれ、充実した職業教育が求められた。

受講前は何からはじめてよいか分からないと消極的だった受講生が、講座がすすむにつれ、再チャレンジする不安感が取り除かれ意欲的な気持ちへと変化していった。家族や周りの意識も変わり、よき理解者へとなり、働くことの意味や意義を深く考えるようになり社会的視点が持てるようになり、再チャレンジを果たす、きっかけとなった。

雇用環境が厳しさを増し再就職が厳しくなっている状況下において、一旦就業を中断した女性にとっての再チャレンジの道のりは遠く、選択肢はまだまだ少ない状況だ。

男性も女性もともに個性と能力を発揮できるような社会を目指して、より一層実効的なプログラムを構築し、適確で効果的なプログラムを提供できるキャリア形成の支援機関として今後も展開していきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等(ジョブカード発行・修了証明書)

自己表現力の裏付けとなる実力をつけてもらうために、キャリアカウンセリングを取り入れたキャリアプランニング支援講習・時代が求めるITスキルとビジネススキル習得講習を策定し、全35回(1回3h)とじっくり長い時間をかけての訓練カリキュラムを実施した。

就職支援としてカリキュラムにジョブカードを取り入れ、修了証と一緒にジョブカードの発行を実施した。

また、ITスキル講習では、Word文書処理技能認定試験3級及びExcel表計算処理技能認定試験3級を実施し、多くの受講生が合格証を手にすることができ、就職活動やキャリア形成の活用を可能とした。

②カリキュラムの内容

IT講習	Word	基本操作・ビジネス文書作成
		表計算
		図形の利用・地図作成
		実技問題練習
		筆記問題練習
		模擬試験
		検定試験(Word文書処理技能認定試験3級)
	Excel	基本操作・表計算・書式設定
		数式・関数
		表計算・印刷設定
		グラフ作成
		実技問題練習
		筆記問題練習
		模擬試験
検定試験(Excel表計算処理技能認定試験3級)		

キャリア講習	・キャリアとは ・目的と概要 ・インタビューゲーム
	・夢を思い出す ・好きなことワーク ・CPS-J検査(適正検査)
	・成功体験ワーク ・能力、得意を棚卸し ・キャリアインベントリー
	・ジョブカード説明、記入
	・自己一致 ・価値観カード ・ライフライン
	・キャリアインベントリー ・職業、資格検索の方法 ・CPS-J返却、解説
	・ジョブカード説明、記入
	・環境を見直す ・環境へ働きかける ・アサーション
	・職業を選択する ・キャリアデザインを描く ・目標、課題を明確にする
	・ジョブカード説明、記入
	・キャリア・カウンセリング(個別対応) ・ジョブカード説明、記入
	・職業人意識、マナー ・職務経歴書、自己PR ・講演会
	・ジョブカード説明、記入
	・体験、模擬面接
・ジョブカード記入～発行に向けて(キャリア・コンサルティング)	
・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント ・長期計画作成	
・短期計画作成、発表 ・ペアでの実践計画 ・応援メッセージ ・講演会	
・ジョブカード発行	

③講座の実施

	実施期間	人数	IT講習	キャリア講習
第1期	9月9日～11月28日	20名募集	3h×22回	3h×13回
第2期	12月2日～2月27日	20名募集	3h×22回	3h×13回

<募集活動>

近隣の市町村(玉名市・玉東町・長洲町・荒尾市)の広報誌への掲載をするとともに市役所・町役場・ハローワーク・図書館・公民館等の行政機関及びスーパーマーケット・お店等、女性の利用が多い場所へのチラシとポスターの配布を実施した。

募集活動を通して、広報誌を見ての問い合わせが圧倒的に多く、市報は重要なお知らせ等の記載があり主婦層には非常に大切な情報誌であることが感じられた。

<応募者数>

市町村の広報誌への掲載と同時に電話での問い合わせが有り、事業の趣旨・カリキュラムの内容等詳しく説明を行い、「思っていたものと違った」といった途中退校を未然に防ぐとともに、抽選方法が先着順ではなく応募動機等の記載内容を選定基準とすることを説明した。

年代別応募者数		年代別受講者数	
20歳代	12人	8人	
30歳代	30人	20人	(就業のため内1名途中退校)
40歳代	8人	8人	
50歳代	8人	4人	(引越のため内1名途中退校)
60歳代	2人	0人	
計	60人	40人	

<子育て中の女性の配慮>

専門職による託児の受け入れを行い、当法人が運営を行っている幼稚園・保育園・子育て支援センターでの育児相談や仕事と育児の両立についてなど幅広く支援・フォローアップすることを可能とした。

また、申込時に託児利用等の状況を確認をすることで事前に年齢・人数等の詳細な託児状況を把握し、子育て中の女性が安心して講座に集中できるような環境を整えた。

④支援対象者(受講者)の状況

<講座出席状況>

0% ~ 30%	3名
40% ~ 70%	3名
80% ~ 100%	34名

受講生の多くの欠席理由としては、子どものケガ・病気等や行事であったが、一部に欠席したことにより授業についていけず休みがちとなった方がいた。

講師・事務局も欠席分のプリントに説明やコメントを記入する等、フォローアップに努めた。

<就職状況>

講座のカリキュラム・就職状況調査等々の状況確認のアンケートを実施した結果、92%の受講生の方々から満足を得る評価となり、全体のおよそ7割の人が再就職の進路を見だし、(講座受講中に再就職の応募へと行動に移した人・専門知識の習得へと行動を移した人)3割程度の方が再就職へとつながった。

－ 就職先 －

一般事務	4名
経理事務	1人
サービス業	2人
医療・介護	2人
製造業	1人
図書館	2人
計	12人